

事例 31 10 年目を迎えた環境放射線モニタリング調査事業 (関東森林管理局 森林放射性物質汚染対策センター)



- ・福島県内国有林
- ・空間線量率測定の様子
(令和5(2023)年7月)



- ・福島県内国有林
- ・伐倒調査木の樹皮を部分採取している様子(令和5(2023)年8月)

森林放射性物質汚染対策センターでは、避難指示が解除された森林での施業を円滑に再開していくため、平成26(2014)年度から国有林内の空間線量率や放射性物質による立木・土壌の汚染実態を調査しています。

本調査は令和5(2023)年度で10年目を迎えたところです。調査区域の空間線量率は、各年度の測定時の現地条件等が異なるものの、約6割程度低減していることが分かりました。

この間、森林内の放射性セシウムは、その多くが土壌に移行しており、現在の森林内の空間線量率は、放射性セシウムが存在する土壌の深さに影響されることが確認されました。

今後、福島県の森林・林業の復興に向けて、これまでの調査結果を踏まえつつ、引き続き空間線量率の実態把握など森林内の放射性物質の動態を調査していきます。